今日を支える、明日を変える。
タキロンシーアイ
競泳日本代表を応援しています。

発行所 化学工業日報社
本社・〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8
☎03-3663-7931(代)
編集 ☎3663-7934　名古屋支局 ☎052-238-3550
販売 ☎3663-7932　シンガポール支局 ☎6324-9939
広告 ☎3663-7933　バンコク支局 ☎0531-2877
企画事業 ☎3663-7936　上海支局 ☎21-52730324
大阪支社 ☎06-6532-0222　北京上海事務所 ☎21-32241352
<購読申し込みは☎03-3663-7932へ>
© 化学工業日報社 2018
https://www.chemicaldaily.co.jp/

化學工業日報

2018年（平成30年）
12月5日 水曜日
第23952号（日刊、土・日・祝日除く）

三菱ケミカルHD 中計目標上方修正

20年度コア営業益4100億円

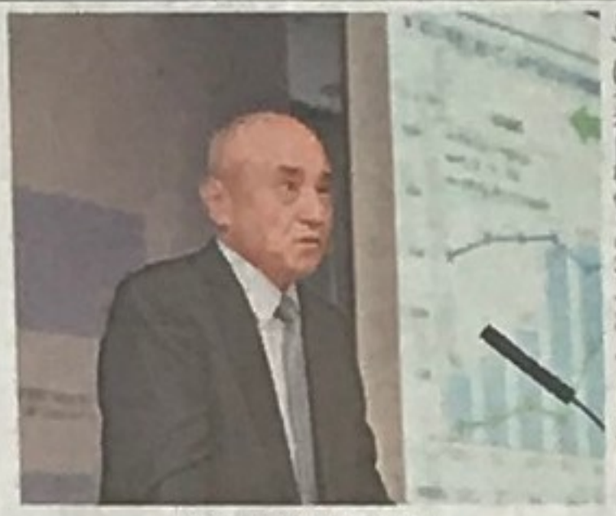
機能商品、産業ガス貢献

三菱ケミカルホールディングスは、中期経営計画「APTS-S 20」について、2020年度のコア営業利益を当初目標の3800億円から4100億円に、純利益を1800億円から2200億円に見直すなど、主要な財務目標値を上方修正した。4日、記者会見した越智仁社長は「これまで実施してきた諸施策の成果により収益力がついてきた。当初、20年度の目標としてコア営業利益で4300億円とも考えていたが、今回4100億円をコミットメントとして決めた」と述べた。石油化学製品の市況下落リスクや、ヘルスケアでの収益計画のずれ込みがあるものの、機能商品群の順調な成長や経営統合した大陽日酸（産業ガス）の貢献などが収益を押し上げる見通し。

コア営業利益率（ROS）は当初目標の8%から9%に、自己資本利益率（ROE）は12%から13%に上方修正した。足元で0・77まで縮小しているネット負債資本倍率（DEレシオ）は、「大陽日酸の欧州での大型投融資（約6400億円）で一旦は1・2まで拡大するが、20年度には1・0へ引き下げる」（同）計画。

越智社長は、この間の主要施策としてポートフォーリオ・マネジメントの強化、化学系3社の事業統合、次世代テーマの早期事業化、グローバル展開の強化など進めてきたと述べた。そのうえで、収益力向上の要因としてとくに「不採算事業からの撤退で構造改革した素材分野の収益が安定し、ケミカル3社統合で機能商品群が10年以降で3倍に拡大した。また安定した収益力を持つ大陽日酸を経営統合したこと」の3つを上げた。「（この結果）素材、機能商品、産業ガス、ヘルスケアの収益力ある4つの領域で展開する体制となり、収益力が安定した。これをどう成長させていくかが今後の戦略になる」と述べた。

高い成長を達成するための施策について、「世界的に高いシェアを持つメチルメタクリレート



会見する越智社長

見直し後の財務指標目標値

	2018年度予想	2020年度目標	当初目標
コア営業利益	3,680億円	4,100億円	3,800億円
ROS（コア営業利益）	9%	9%	8%
当期利益	2,130億円	2,200億円	1,800億円
ROE	16%	13%	12%
Net DIEレシオ	0.77	1.0	0.8
◆分野別コア営業利益			
機能商品	875億円	1,200億円	1,250億円
素材 ケミカルズ	1,515億円	1,250億円	1,300億円
素材 産業ガス	615億円	1,000億円	
ヘルスケア	725億円	660億円	1,250億円
コーポレート他	(50億円)	(10億円)	―

アルメディオ

絶縁樹脂に導通パス

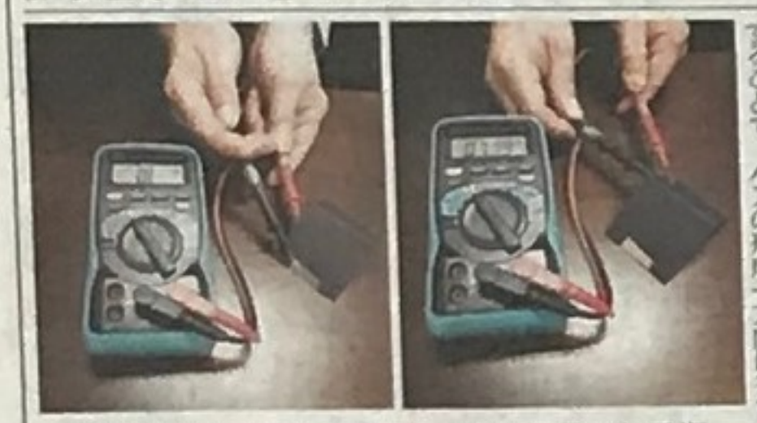
スラリー塗るだけ 電子回路を簡便形成

アルメディオ（東京都）は、絶縁樹脂に塗布して導電性および熱伝導パスを形成するコンタクティブ・スラリーを開発した。絶縁樹脂に穴を開けることなく特定の部分に塗布するだけで、絶縁層を通導するパスを形成できる。マトリックス樹脂は熱硬化性樹脂、熱可塑性樹脂ともに使用可能。

このスラリーに金属微粒子を加えることにより、電気抵抗を数オーダーレベルに抑えられることも確認している。フレキシブル電子回路の工程簡略化をはじめとした特性を生かせる用途の探索に向け、来年1月からサンプル出荷を開始する。

導電性金属板に絶縁樹脂を塗布した場合、表層は絶縁体になるため、さらにその上に導電性塗料を塗布しても導電性の金属板との間で通電することはない。一方、開発したスラリーを金属板に塗布された絶縁樹脂の上に塗布し、再加熱加工すると、絶縁樹脂部に導通パスを形成し、ベースの金属板と表層部で縦方向（Z軸）に導通させられるようになる。

同スラリーは、導通素材として炭素繊維をPIN状の線径ナノサイズで樹脂に高濃度分散させた。一般的に樹脂内にナノ構造の炭素繊維を等距離に分散させると一つひとつの炭素繊維を絶縁性の樹脂が取り囲んでしまうが、同社では独自設計の金属キレート剤を併用することで、パスの形成に成功した。X軸、Y軸方向はもちろん、Z軸方



導通テスターによるテスト。右（ステンレス板に50ナノメートルのPMMAを塗膜し、30ナノメートルのアルミ微粒子を配合したスラリーを塗布）は導通するが、スラリーを塗布していないタイプは導通していない

AGC

合成医薬CDMO

スペイン社買収 グ

AGCは4日、スペインの合成医薬品原薬製造会社を買収すると発表した。開発医薬品から商用医薬品まで幅広いスケールの生産に対応可能な製造体制を有する企業で、これまで日本拠点を起点に展開していた合成医薬品の開発・製造受託（CDMO）事業について、米国食品医薬品局（FDA）など各国当局に登録された拠点を欧州で手に入れることになる。7月に発表した日本での能力増強と合わせると、合成医薬品原薬のグループ製造能力は現行比20倍に拡大する。

スペイン・カタルーニャ州に本社を構えるMalgrat Pharma Chemicals（MPC）はマルクラフト・ファーマ・ケミカルズを完全子会社化する。cGMP（医薬品の製造にかかわる基準）に対応した設備を揃え、従業員数は300人ほど。同社の親会社で、医療用医薬品や動物薬、バイオ医薬品の製造・販売を手がけ